

JST 戦略的創造研究推進事業（CREST・さきがけ・ACT-X）学内説明会

JST CREST/さきがけ/ACT-Xへの 応募に向けて

URAオフィス

主任URA（特定准教授） 玉井克幸

2023年4月27日（木） 15:20～15:40

JST 戦略的創造研究推進事業（CREST/さきがけ/ACT-X）とは

戦略的創造研究推進事業の目的

我が国が直面する重要な課題の克服に向けて、挑戦的な基礎研究を推進し、社会・経済の変革をもたらす科学技術イノベーションを生み出す
新たな科学知識に基づく創造的な革新的技術のシーズ（新技術シーズ）を創出すること。

JST 戦略的創造研究推進事業（CREST/さきがけ/ACT-X）とは

「**戦略目標**」で示された課題

現状の単なる延長線上にある研究でないこと

目的基礎研究
(**出口を見据えた基礎研究**)

戦略的創造研究推進事業の目的

我が国が直面する重要な課題の克服に向けて、**挑戦的な基礎研究**を推進し、**社会・経済の変革をもたらす科学技術イノベーション**を生み出す**新たな科学知識に基づく創造的な革新的技術のシーズ**（**新技術シーズ**）を創出すること。

オリジナリティ

当該研究は、社会にどんな**インパクト**を与えられるか

将来的にイノベーションに繋がる研究

研究期間中にイノベーションを起こしたり、社会実装を求めているわけではないが、**明確に出口を見据えていること、将来どのようなイノベーションに繋がる可能性があるかを具体的に示す必要。**

戦略目標とは

- 国の科学技術政策や社会的・経済的ニーズ等を踏まえ、国（文部科学省）が「戦略目標」を設定
- 戦略目標の実現のための「達成目標」を3つ提示

戦略目標と達成目標の例

戦略目標

令和3年度「複雑な輸送・移動現象の統合的理解と予測・制御の高度化」

実験的研究、数学的理論研究、数値計算的研究を組み合わせることで、従来の演繹的方法論だけでなく帰納的方法論も取り入れた新たな視点や横断的な研究から複雑な輸送・移動現象の解明を進め、予測や制御の高度化を目指す。

3つの達成目標

- (1) 複雑な輸送・移動現象の原理解明とその手法開発
- (2) 複雑な輸送・移動現象のモデル・予測の高度化
- (3) 複雑な輸送・移動現象の制御方法の創出

文科省により公開される「戦略目標」の資料には、「研究推進の際に見据えるべき将来の社会像」「具体的な研究例」「国内外の研究動向」「検討の経緯」や、先行するCREST/さきがけとの関係性など、つまり、どういった経緯・背景で当該戦略目標が策定されたかも記載されている。



この戦略目標を基に、JSTで、さきがけ『複雑な流動・輸送現象の解明・予測・制御に向けた新しい流体科学 [複雑流動]』（令和3年度）が立ち上げられた。戦略目標を十分に理解する必要。

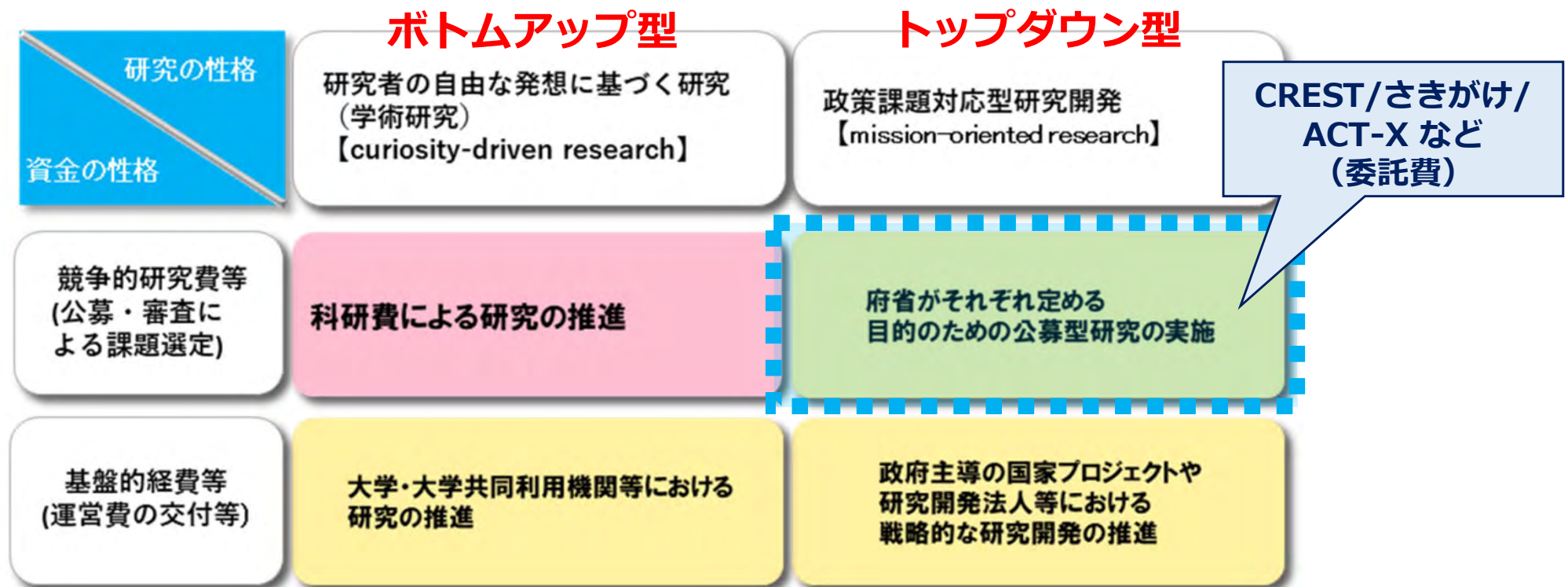
JST 戦略的研究推進事業（CREST/さきがけ/ACT-X）の位置付け

令和5年度科研費公募要領より抜粋

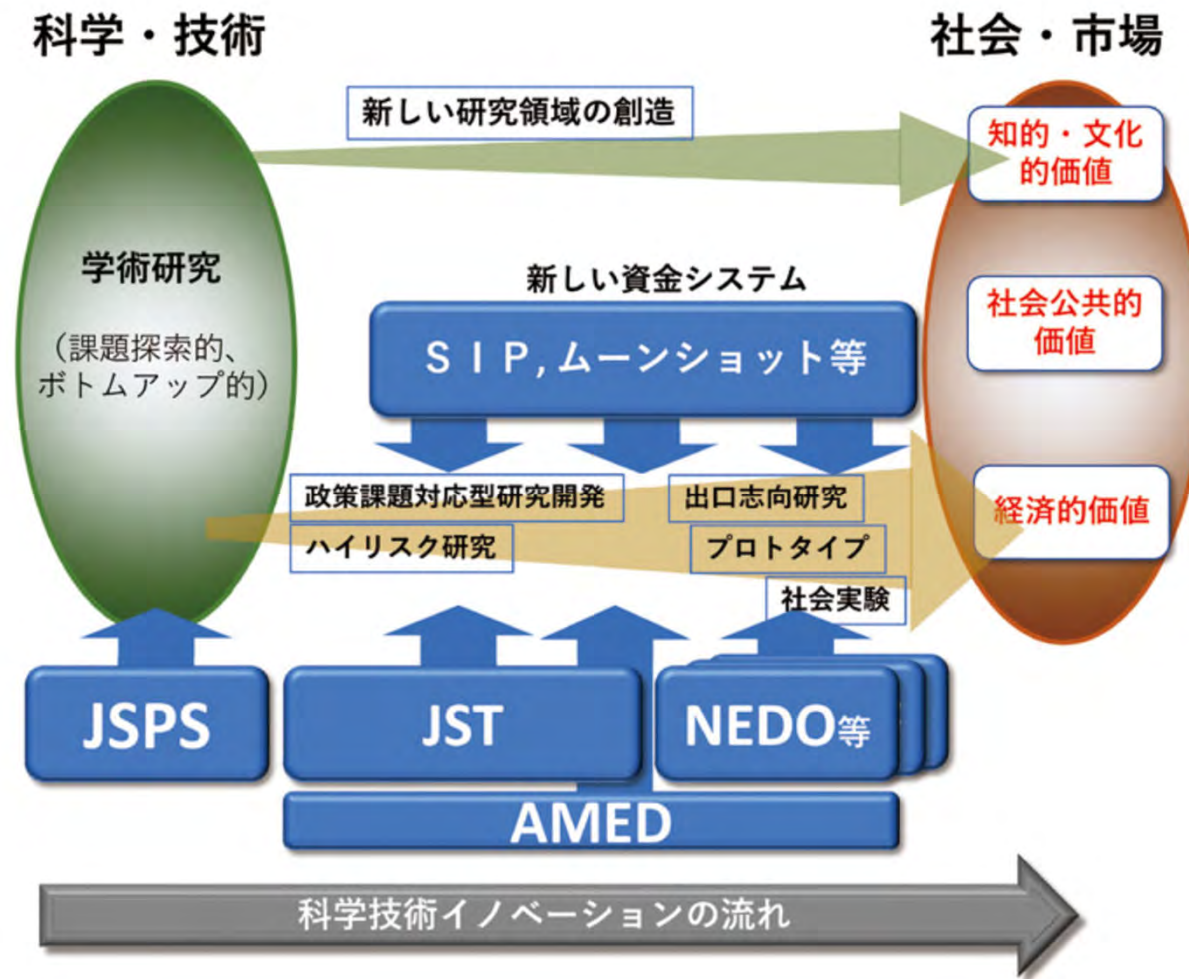


JST 戦略的研究推進事業（CREST/さきがけ/ACT-X）の位置付け

令和5年度科研費公募要領より抜粋



資金配分機関と競争的研究費の位置付け



JSPS：日本学術振興会、JST：科学技術振興機構、NEDO：新エネルギー・産業技術総合開発機構、AMED：日本医療研究開発機構、SIP：戦略的イノベーション創造プログラム（内閣府）、ムーンショット：ムーンショット型研究開発プログラム（JST, NEDO, NARO, AMED）

JST CREST/さきがけ/ACT-X の概要

CREST

科学技術イノベーションにつながる卓越した
成果を生み出すネットワーク型研究 (チーム型)

研究期間 | 5年6ヶ月以内
研究費 | 総額1.5億～5億円程度／チーム

さきがけ

科学技術イノベーションの源泉を生み出す
ネットワーク型研究 (個人型)

研究期間 | 3年6ヶ月以内
研究費 | 総額3000万～4000万円程度／課題

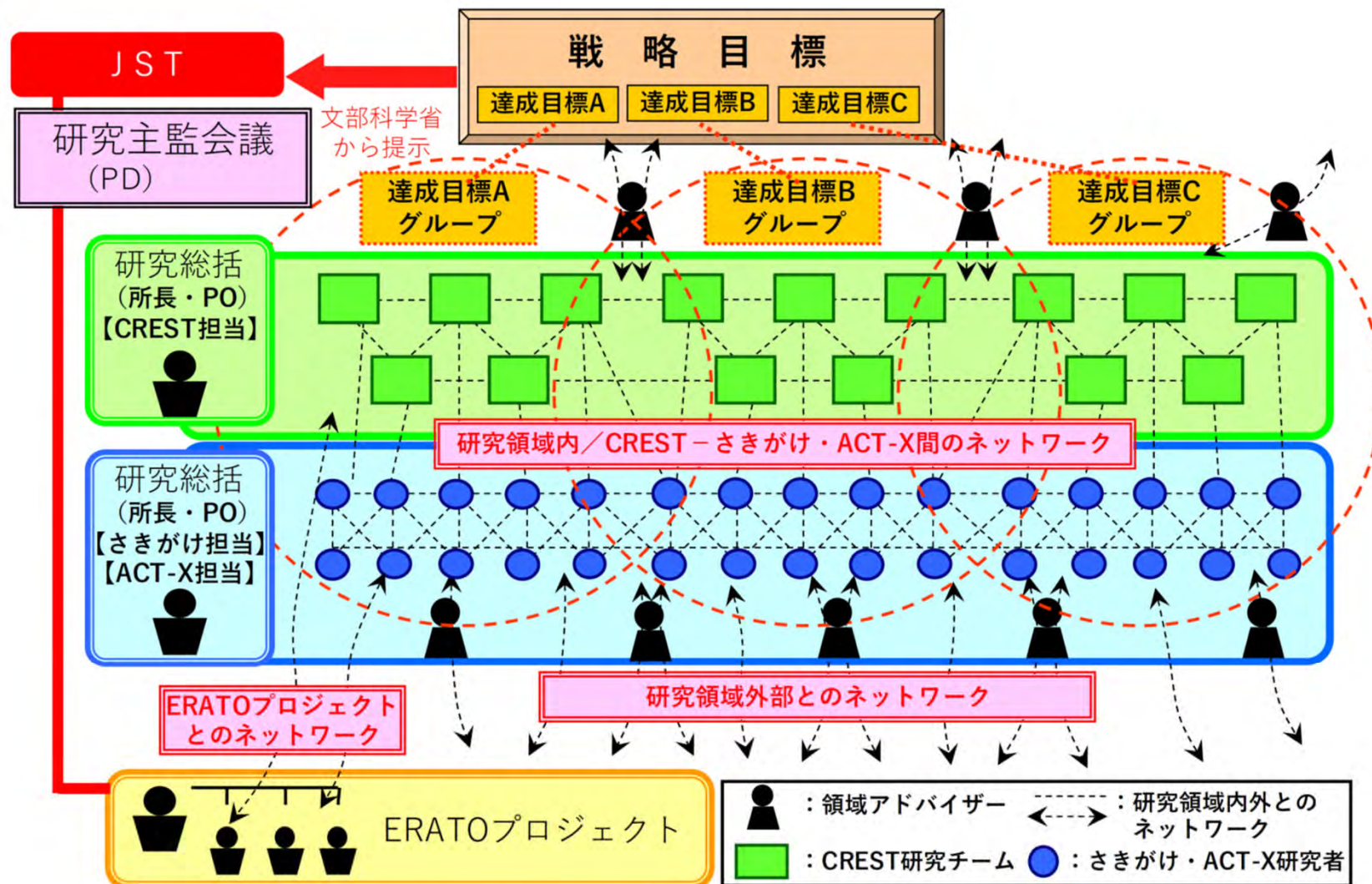
ACT-X

独創的・挑戦的なアイデアを持つ若手研究者の
「個の確立」を支援するネットワーク型研究 (個人型)

研究期間 | 加速フェーズとあわせて3年6ヶ月以内
研究費 | 数百万円程度／課題

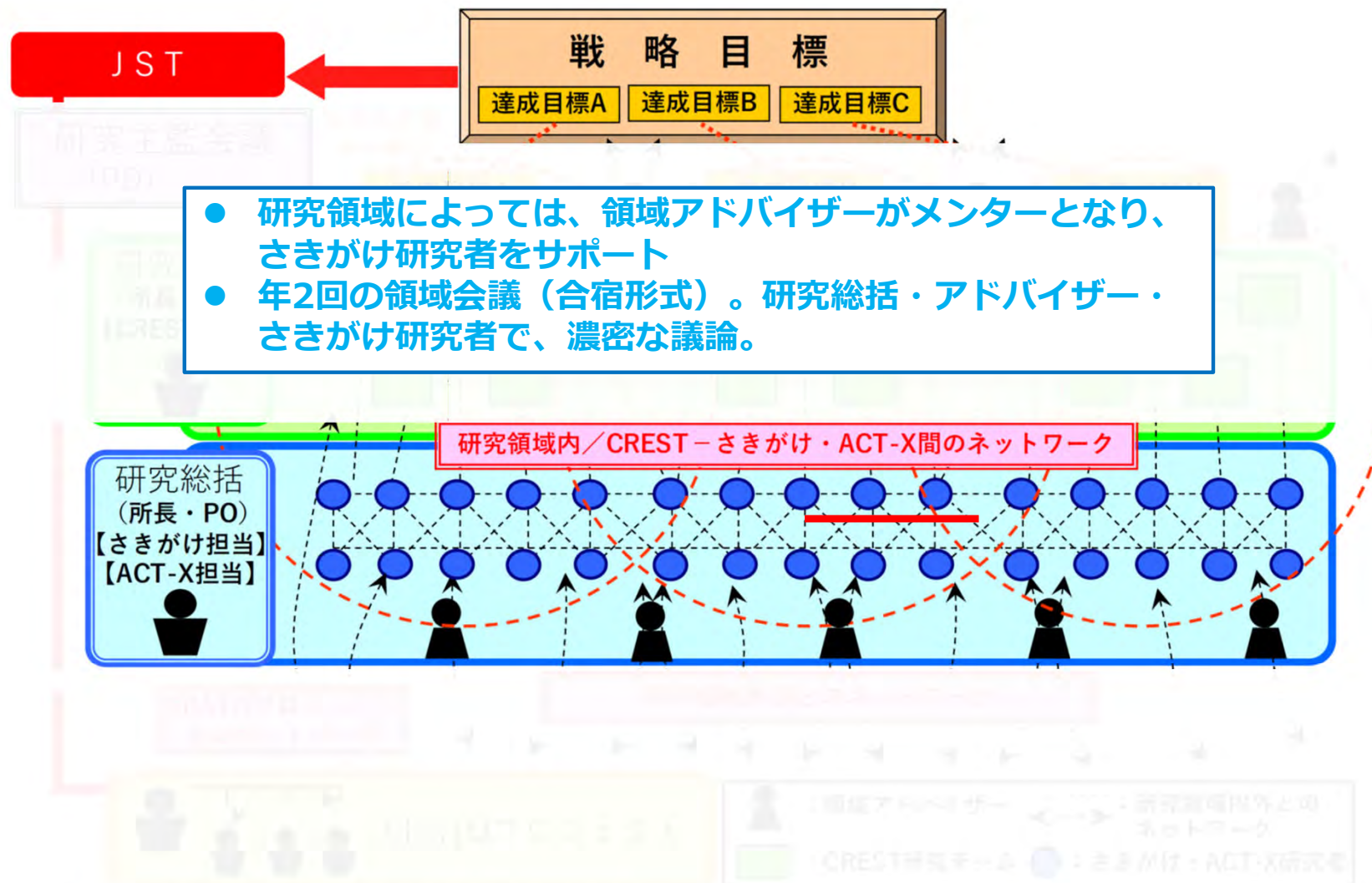
※加速フェーズでは、最大1000万円程度／年の研究費を追加支援

JST CREST/さきがけ/ACT-X のネットワーク型研究所とは



CREST・さきがけ・ACT-X『ネットワーク型研究所』の標準的モデル

JST CREST/さきがけ/ACT-X のネットワーク型研究所とは



CREST・さきがけ・ACT-X『ネットワーク型研究所』の標準的モデル

CREST (10領域)

研究領域	戦略目標	発足年度
量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓 (研究総括：井元 信之)	量子フロンティア開拓のための共創型研究	2023年度
海洋とCO ₂ の関係性解明から拓く海のポテンシャル (研究総括：伊藤 進一)	海洋とCO ₂ の関係性解明と機能利用	
ナノ物質を用いた半導体デバイス構造の活用基盤技術 (研究総括：齋藤 理一郎)	新たな半導体デバイス構造に向けた低次元マテリアルの活用基盤技術	
細胞操作 (研究総括：宮脇 敦史)	革新的な細胞操作技術の開発と細胞制御機構の解明	
社会課題解決を志向した革新的計測・解析システムの創出 (研究総括：鷺尾 隆)	社会課題解決を志向した計測・解析プロセスの革新	2022年度
分解・劣化・安定化の精密材料科学 (研究総括：高原 淳)	資源循環の実現に向けた結合・分解の精密制御	2021年度
基礎理論とシステム基盤技術の融合によるSociety 5.0のための基盤ソフトウェアの創出 (研究総括：岡部 寿男) (※A) AIP (※B) 日仏共同提案募集	Society 5.0時代の安心・安全・信頼を支える基盤ソフトウェア技術	
データ駆動・AI駆動を中心としたデジタルトランスフォーメーションによる生命科学研究の革新 (研究総括：岡田 康志) (研究総括補佐：高橋 恒一) (※A) AIP	『バイオDX』による科学的発見の追究	
未踏探索空間における革新的物質の開発 (研究総括：北川 宏) (※B) 日仏共同提案募集	元素戦略を基軸とした未踏の多元素・複合・準安定物質探索空間の開拓	
生体マルチセンシングシステムの究明と活用技術の創出 (研究領域統括：永井 良三) (研究総括：入来 篤史) (※B) 日仏共同提案募集	ヒトのマルチセンシングネットワークの統合的理解と制御機構の解明	

さきがけ (15領域)

研究領域	戦略目標	発足年度
量子・古典の異分野融合による共創型フロンティアの開拓 (研究総括：井元 信之)	量子フロンティア開拓のための共創型研究	2023年度
海洋バイオスフィア・気候の相互作用解明と炭素循環操舵 (研究総括：神田 穰太)	海洋とCO ₂ の関係性解明と機能利用	
新原理デバイス創成のためのナノマテリアル (研究総括：岩佐 義宏)	新たな半導体デバイス構造に向けた低次元マテリアルの活用基盤技術	
社会課題を解決する人間中心インタラクションの創出 (研究総括：葛岡 英明) (※A) AIP	人間理解とインタラクションの共進化	
計測・解析プロセス革新のための基盤の構築 (研究総括：田中 功)	社会課題解決を志向した計測・解析プロセスの革新	
物質と情報の量子協奏 (研究総括：小林 研介)	量子情報と量子物性の融合による革新的量子制御技術の創成	2022年度
文理融合による人と社会の変革基盤技術の共創 (研究総括：栗原 聡) (※A) AIP	文理融合による社会変革に向けた人・社会解析基盤の創出	
地球環境と調和しうる物質変換の基盤科学の創成 (研究総括：山中 一郎)	「総合知」で切り拓く物質変換システムによる資源化技術	
加齢による生体変容の基盤的な理解 (研究領域統括：望月 直樹) (研究総括：三浦 正幸)	老化に伴う生体ロバストネスの変容と加齢性疾患の制御に係る機序等の解明	2021年度
持続可能な材料設計に向けた確実な結合とやさしい分解 (研究総括：岩田 忠久)	資源循環の実現に向けた結合・分解の精密制御	
複雑な流動・輸送現象の解明・予測・制御に向けた新しい流体科学 (研究総括：後藤 晋)	複雑な輸送・移動現象の統合的理解と予測・制御の高度化	
社会変革に向けたICT基盤強化 (研究総括：東野 輝夫) (※A) AIP	Society 5.0時代の安心・安全・信頼を支える基盤ソフトウェア技術	
物質探索空間の拡大による未来材料の創製 (研究総括：陰山 洋)	元素戦略を基軸とした未踏の多元素・複合・準安定物質探索空間の開拓	
パンデミックに対してレジリエントな社会・技術基盤の構築 (研究総括：押谷 仁)	「総合知」で築くポストコロナ社会の技術基盤	
生体多感覚システム (研究領域統括：永井 良三) (研究総括：神崎 亮平)	ヒトのマルチセンシングネットワークの統合的理解と制御機構の解明	

ACT-X (4領域)

研究領域	戦略目標	発足年度
次世代 AI を築く数理・情報科学の革新 (研究総括：原 隆浩) (※A) AIP	人間理解とインタラクションの共進化 文理融合による社会変革に向けた人・社会解析基盤の創出 信頼される AI 数理学と情報科学の連携・融合による情報活用基盤の創出と社会への展開 Society 5.0を支える革新的コンピューティング技術の創出	2023年度
	社会課題解決を志向した計測・解析プロセスの革新 資源循環の実現に向けた結合・分解の精密制御 元素戦略を基軸とした未踏の多元素・複合・準安定物質探査空間の開拓 自在配列と機能 情報担体と新デバイス ナノスケール動的挙動の理解に基づく力学特性発現機構の解明 トポロジカル材料科学の構築による革新的材料・デバイスの創出	

生命現象と機能性物質 (研究総括：豊島 陽子)	老化に伴う生体ロバストネスの変容と加齢性疾患の制御に係る機序等の解明 ヒトのマルチセンシングネットワークの統合的理解と制御機構の解明 革新的植物分子デザイン 細胞内構成因子の動態と機能 多細胞間での時空間的な相互作用の理解を目指した技術・解析基盤の創出 ゲノムスケールの DNA 合成及びその機能発現技術の確立と物質生産や医療の技術シーズの創出 実験とデータ科学等の融合による革新的材料開発手法の構築	2022年度
	「総合知」で築くポストコロナ社会の技術基盤 情報担体と新デバイス 次世代 IoT の戦略的活用を支える基盤技術 情報デバイスの超低消費電力化や多機能化の実現に向けた、素材技術・デバイス技術・ナノシステム最適化技術等の融合による革新的基盤技術の創成 ネットワークにつながれた環境全体とのインタラクションの高度化 微小エネルギーの高効率変換・高度利用に資する革新的なエネルギー変換機能の原理解明、新物質・新デバイスの創製等の基盤技術の創出	2021年度

JST CREST/さきがけ/ACT-Xの募集スケジュール

- 科研費とは異なり、大学事務を介さず、直接応募（＝学内締切無し）
- 締切当日は、応募が殺到し、e-radがダウンすることがあるので、
ぜひ、受付締切の前日までの提案書提出を！

	CREST	さきがけ・ACT-X
研究提案の募集開始	<u>2023年4月11日(火)</u>	
研究提案の受付締切 (府省共通研究開発管理システム [e-Rad] による受付期限日時)	<u>6月6日(火)</u> <u>午前12時(正午)</u> <u><厳守></u>	<u>5月30日(火)</u> <u>午前12時(正午)</u> <u><厳守></u>
書類選考期間	6月上旬～7月下旬	
書類選考結果の通知	7月上旬～7月下旬	
面接選考期間	7月下旬～8月上旬	
選定課題の通知・発表	9月下旬	
研究開始	10月以降	

- AMEDは、医療分野の研究開発における基礎から実用化までの一貫した研究開発を推進し、成果の円滑な実用化及び医療分野の研究開発のための環境の整備を、総合的かつ効果的に行う資金配分機関（ファンディングエージェンシー・FA）として、2015年に設立。
- JSTにおける医療分野の研究開発は、AMEDに移管。
- JSTの戦略的創造研究推進事業に対し、AMEDでは革新的先端研究開発支援事業であり、CRESTとさきがけは、それぞれAMED-CRESTとPRIMEと呼ばれる。

※AMEDの事業およびAMED-CREST/PRIMEのスキームは、JSTのそれらとほぼ同一。
CREST/さきがけおよびAMED-CREST/PRIME間の重複応募制限に注意。

「CREST」「さきがけ」「ACT-X」「AMED-CREST」「PRIME*15」の全ての研
（究領域又は研究開発領域の中から、研究提案者として応募できるのは、1件のみ
など。）

<https://www.amed.go.jp/program/list/16/02/001.html>

※締切日をはじめ詳細は必ずAMED-CREST/PRIMEの公募要領を参照のこと。

令和5年度 募集領域 (AMED革新的先端研究開発支援事業)

	研究開発領域 (公募研究開発課題)		研究開発費の規模 (間接経費 ^{※1} を 含まず)	研究開発実施 予定期間	新規採択 課題 予定数
1	ストレスへの応答と疾病発症に 至るメカニズムの解明 (研究開発総括：磯 博康) (研究開発副総括：一條 秀憲) (研究開発副総括：関谷 毅)	ユニットタイプ (AMED-CREST)	1 課題当たり総額 3 億円以下	最長 5.5 年 令和 5 年度～ 令和 10 年度	4～6 課題 程度
		ソロタイプ (PRIME)	1 課題当たり総額 4,000 万円以下	最長 3.5 年 令和 5 年度～ 令和 8 年度	8～12 課題 程度
2	根本的な老化メカニズムの理解 と破綻に伴う疾患機序解明 (研究開発総括：望月 直樹) (研究開発副総括：深水 昭吉) (研究開発副総括：安友 康二)	ユニットタイプ (AMED-CREST)	1 課題当たり総額 2.5 億円以下	最長 5.5 年 令和 5 年度～ 令和 10 年度	4～6 課題 程度
		ソロタイプ (PRIME)	1 課題当たり総額 4,000 万円以下	最長 3.5 年 令和 5 年度～ 令和 8 年度	8～12 課題 程度
3	免疫記憶の理解とその制御に資 する医療シーズの創出 ^{※2} (研究開発総括：中山 俊憲) (研究開発副総括：竹田 潔)	ユニットタイプ (AMED-CREST)	1 課題当たり総額 3 億円以下	最長 5.5 年 令和 5 年度～ 令和 10 年度	3～5 課題 程度
4	マルチセンシングネットワーク の統合的理解と制御機構の解明 による革新的医療技術開発 ^{※3} (研究開発総括：永井 良三) (研究開発副総括：竹内 昌治) (研究開発副総括：西田 幸二)	ユニットタイプ (AMED-CREST)	1 課題当たり総額 3 億円以下	最長 5.5 年 令和 5 年度～ 令和 10 年度	2～4 課題 程度
		ソロタイプ (PRIME)	1 課題当たり総額 4,000 万円以下	最長 3.5 年 令和 5 年度～ 令和 8 年度	8～12 課題 程度
5	感染症創薬に向けた研究基盤の 構築と新規モダリティ等の技術 基盤の創出 ^{※2,3} (研究開発総括：土井 洋平) (研究開発副総括：松浦 善治)	ユニットタイプ (AMED-CREST)	1 課題当たり総額 3 億円以下	最長 5.5 年 令和 5 年度～ 令和 10 年度	2～4 課題 程度

■ 書類選考、面接選考の二段階

■ 書類選考は、3~4名の領域アドバイザーによる相対評価

- 研究総括は、すべての提案書に目を通す。
- 提案書様式の変更（ページ制限を守らないなど）は、応募要件を満たしていないとして、書類選考さえしてもらえないので注意。

■ 面接選考は、研究総括とともに、領域アドバイザーにより絶対評価

- 研究総括および、主に書類選考をした領域アドバイザーからの質問が中心
- 面接選考は、あらかじめ予定日が提示されているので、必ず予定を空けておく。

■ 面接選考会終了後、研究総括および領域アドバイザーが議論し、最終的に研究総括の責任で採択候補者を決定

- 研究総括からの面接選考結果を受け、JST内で、他の研究領域とのバランスを取って採択者を決定する。

選考基準（事前評価基準）

書類選考・面接選考の両方に係る選考基準なので、十分に、明確に、アピールする必要。

CREST	さきがけ	ACT-X
a. 戦略目標の達成に貢献するものであること。		
b. 研究領域の趣旨に合致している。		
<p>c. 独創的であり国際的に高く評価される基礎研究であって、今後の科学技術イノベーションに大きく寄与する卓越した成果が期待できること。</p>	<p>c. 独創的・挑戦的かつ国際的に高水準の発展が見込まれる基礎研究であって、科学技術イノベーションの源泉となる先駆的な成果が期待できること。</p>	<p>c. 独創的・挑戦的なアイデアに基づく提案であり、国際的に高水準の発展が将来的に見込まれる基礎研究であって、科学技術イノベーションの創出につながる新しい価値の創造が期待できること。</p>
<p>d. 以下の条件をいずれも満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究提案者は、研究遂行のための研究実績を有していること。 ・研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。 	<p>d. 研究提案者は、提案研究の内容、研究姿勢や他の研究者との議論・相互触発の取り組みを通じて、当該さきがけ・ACT-X 研究領域全体の発展ならびに関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できる存在であること。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究提案書において、①研究構想の背景 研究の必要性・重要性、② 研究提案者の実績 事実、及び ③ 研究構想・計画の 3 者を区別しつつ、それぞれが明確に記述されていること。 ・最適な研究実施体制であること。研究提案者がチーム全体を強力に統率して責任を負うとともに、主たる共同研究者を置く場合は研究提案者の研究構想実現のために必要不可欠であって、研究目的の達成に向けて大きく貢献できる十分な連携体制が構築されること。 ・研究提案者の研究構想を実現する上で必要十分な研究費計画であること。 ・研究提案者及び主たる共同研究者が所属する研究機関は、当該研究分野に関する研究開発力等の技術基盤を有していること。 	<p>e. 以下の条件をいずれも満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究提案の独創性は、研究提案者本人の着想によるものであること。 ・研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。 ・個人型研究として適切な実施規模であること。 	<p>e. 以下の条件をいずれも満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究提案の独創性は、研究提案者本人の着想によるものであること。 ・個人型研究として適切な実施規模であること。

選考基準（事前評価基準）

書類選考・面接選考の両方に係る選考基準なので、十分に、明確に、アピールする必要。

CREST	さきがけ	ACT-X
a. 戦略目標の達成に貢献するものであること。		
b. 研究領域の趣旨に合致している。		
<p>c. 独創的であり国際的に高く評価される基礎研究であって、今後の科学技術イノベーションに大きく寄与する卓越した成果が期待できること。</p>	<p>c. 独創的・挑戦的かつ国際的に高水準の発展が見込まれる基礎研究であって、科学技術イノベーションの源泉となる先駆的な成果が期待できること。</p>	<p>c. 独創的・挑戦的なアイデアに基づく提案であり、国際的に高水準の発展が将来的に見込まれる基礎研究であって、科学技術イノベーションの創出につながる新しい価値の創造が期待できること。</p>
<p>d. 以下の条件をいずれも満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究提案者は、研究遂行のための研究実績を有していること。 ・研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。 ・研究提案書において、①研究構想の背景 研究の必要性・重要性、②研究提案者の実績 事実、及び③研究構想・計画の3者を区別しつつ、それぞれが明確に記述されていること。 ・最適な研究実施体制であること。研究提案者がチーム全体を強力に統率して責任を負うとともに、主たる共同研究者を置く場合は研究提案者の研究構想実現のために必要不可欠であって、研究目的の達成に向けて大きく貢献できる十分な連携体制が構築されること。 ・研究提案者の研究構想を実現する上で必要十分な研究費計画であること。 ・研究提案者及び主たる共同研究者が所属する研究機関は、当該研究分野に関する研究開発力等の技術基盤を有していること。 	<p>d. 研究提案者は、提案研究の内容、研究姿勢や他の研究者との議論・相互触発の取り組みを通じて、当該さきがけ・ACT-X 研究領域全体の発展ならびに関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できる存在であること。</p> <p>e. 以下の条件をいずれも満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究提案の独創性は、研究提案者本人の着想によるものであること。 ・研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること。 ・個人型研究として適切な実施規模であること。 	<p>d. 研究提案者は、提案研究の内容、研究姿勢や他の研究者との議論・相互触発の取り組みを通じて、当該さきがけ・ACT-X 研究領域全体の発展ならびに関係研究分野の継続的な発展への貢献が期待できる存在であること。</p> <p>e. 以下の条件をいずれも満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究提案の独創性は、研究提案者本人の着想によるものであること。 ・個人型研究として適切な実施規模であること。

さきがけの選考基準について

■ 独創的・挑戦的かつ国際的に高水準の発展が見込まれる基礎研究

自身のこれまでの研究の単なる延長線上にあるものや、当該分野の研究者であれば誰でも思いつくようなもの、時間を掛ければ遅かれ早かれ解明できるものではないこと。

■ 研究構想の実現に必要な手掛かりが得られていること

独創的で、挑戦的であるからこそ、何らかの手掛かりを得ている必要。つまり、予備実験の状況、具体的データなどを示す。

■ 個人型研究として適切な実施規模

さきがけは、あくまでも個人研究であり、研究期間も3.5年。共同研究を前提とした計画や、ポスドク・博士学生等の参画が無ければ推進できないような計画は、不可。

(研究補助員の雇用は可。自律的に研究を推進する者の雇用は不可。)
一方で、4,000万円/3.5年に見合った規模の研究計画である必要も。

公募説明会

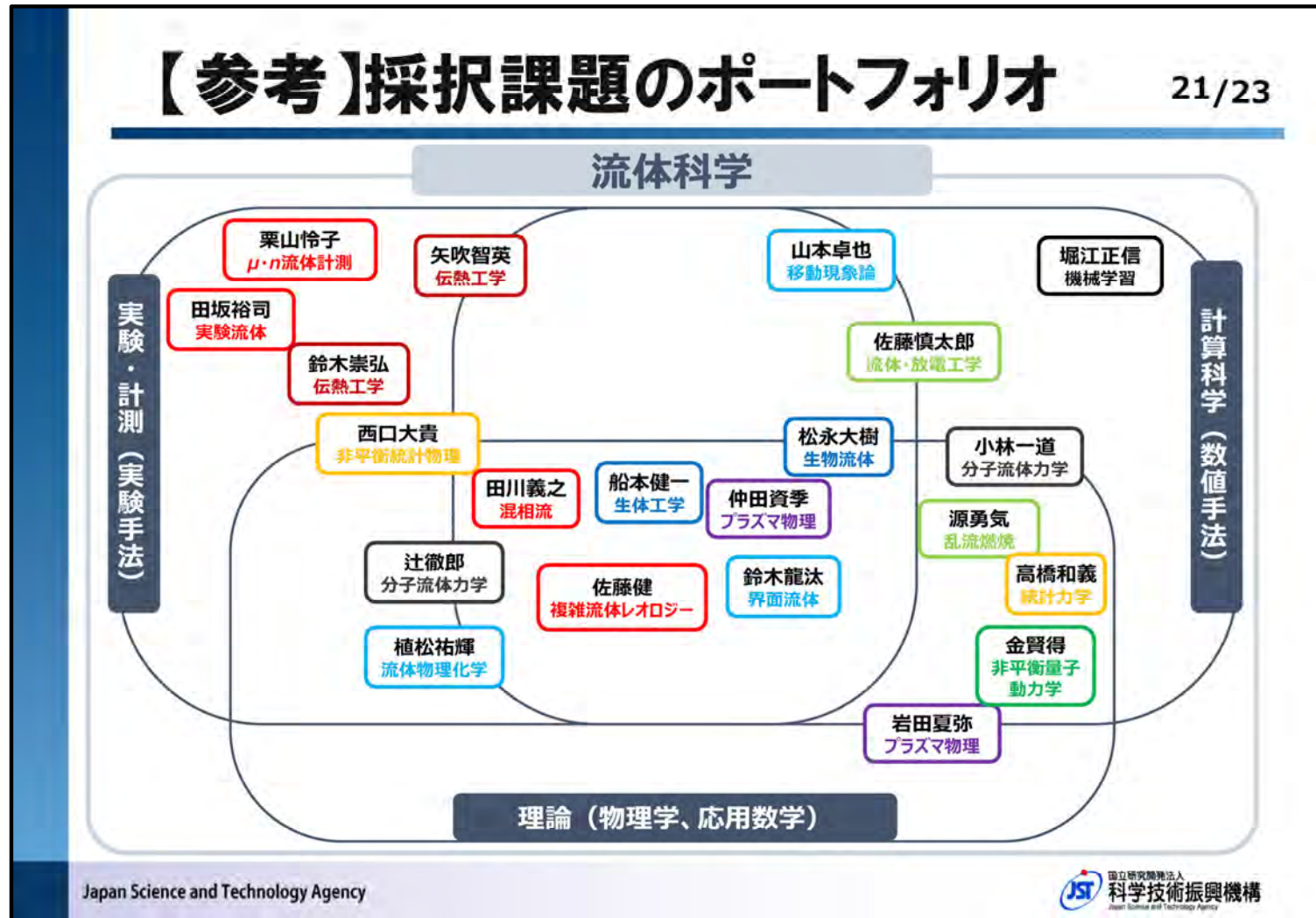
研究総括が研究領域の運営方針やどのような研究提案を期待しているか語り、研究総括に直接質問することも可能。既存研究領域は、公募説明会を開催しないことも。

※後日、動画で視聴することが可能。

研究領域の概要/募集・選考・研究領域運営にあたっての研究総括の方針

「研究領域の概要/募集・選考・研究領域運営にあたっての研究総括の方針」が、CREST/さきがけ/ACT-Xの募集サイトで公開されている。募集年度ごとに、どのような研究提案を期待しているか記載されている。

戦略目標の達成に向け、各研究領域は採択する課題を戦略的に選んでいる。
 ※既存領域の募集説明会では、採択課題のポートフォリオが示されることが多い。

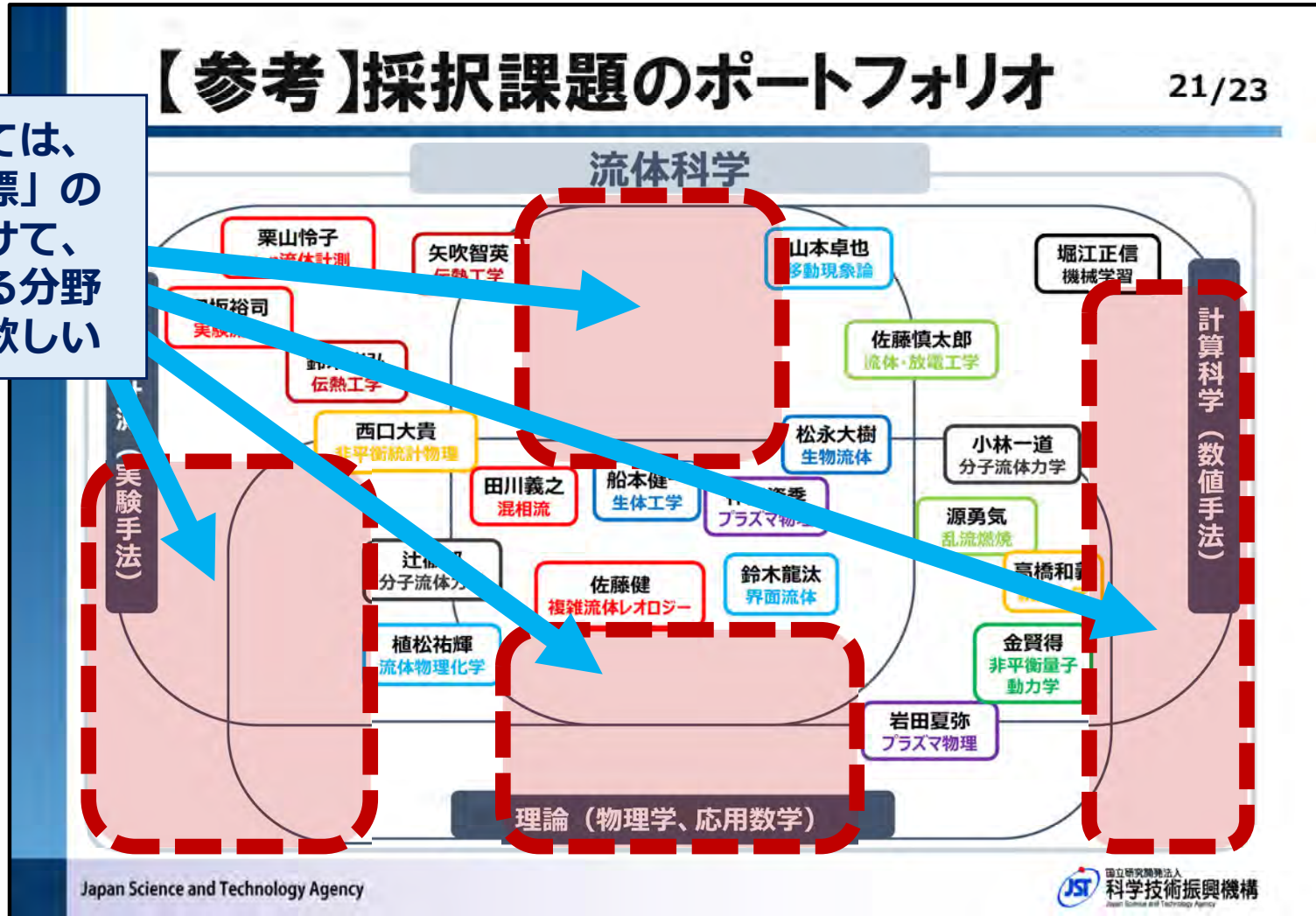


さきがけ「複雑な流動・輸送現象の解明・予測・制御に向けた新しい流体科学」領域
 2023年度募集説明会資料より抜粋

研究領域のポートフォリオ

戦略目標の達成に向け、各研究領域は採択する課題を戦略的に選んでいる。
※既存領域の募集説明会では、採択課題のポートフォリオが示されることが多い。

領域としては、「戦略目標」の達成に向けて、抜けている分野の課題が欲しい



さきがけ「複雑な流動・輸送現象の解明・予測・制御に向けた新しい流体科学」領域
2023年度募集説明会資料より抜粋

その他参考事項

■ 特定課題調査（CREST、さきがけが対象）

- 不採択提案のうち、研究データの補完等により、次年度の応募において、評価を的確に行うことができると期待される場合、研究総括より依頼されることがある。（※特定課題調査を実施するための研究費を受給）
- ただし、次年度に同一研究領域へ再応募が条件。また、選考において優先的に扱われることはない。

■ さきがけスタートアップ支援

- さきがけ研究者の独立を促し、さきがけ研究者の能力をより一層伸ばしてもらうことが目的。
- 採択時または研究期間中にさきがけ研究者が自立的に研究を行うために必要な環境整備費を対象とした、研究費の追加支援。

■ さきがけの研究費

- さきがけは、科研費などと異なり、申請額に対し減額されることはほぼ無い。むしろ研究総括裁量経費や年度末の調整などにより、追加支援を受けられる可能性もある。

- **研究代表者は、応募前に、倫理研修の受講修了が必須**
 - e-rad上での申告必要
 - 共同研究者も採択後には受講修了を求められる

- **研究活動の国際化、オープン化に伴う新たなリスクに対する研究インテグリティの確保**
 - 近年、研究活動の国際化、オープン化に伴う新たなリスクにより、開放性、透明性といった研究環境の基盤となる価値が損なわれる懸念や研究者が意図せず利益相反・責務相反に陥る危険性が指摘。
 - 国際的に信頼性のある研究環境を構築するために、研究者及び大学・研究機関等における研究の健全性・公正性（研究インテグリティ）を自律的に確保する必要。
（令和3年4月27日 統合イノベーション戦略推進会議決定）」

※令和3年度公募より、「他制度での助成等の有無」（事業によっては「研究費の応募・受入等の状況」）の様式に、海外からの研究資金についても記入が求められるようになっている。

JST CREST/さきがけ/ACT-X に関するWebサイト

CREST/さきがけ/ACT-X 各領域の詳細に関する情報

<https://www.jst.go.jp/kisoken/index.html>

CREST/さきがけ/ACT-X 募集に特化したWebサイト

<https://www.jst.go.jp/kisoken/boshuu/teian.html>

CREST/さきがけ/ACT-X に関連したTwitter

@JST_Kisokenkyu

URAオフィスによる提案支援

提案書作成支援

- 記述に関するアドバイス、ポンチ絵（挿入図）のアドバイスなど

面接選考支援

- プレゼン資料のアドバイス、模擬面接選考の実施など

- CREST/さきがけ/ACT-Xの提案書は、科研費の研究計画調書とは書き方が異なります。CREST/さきがけ/ACT-X 向けにアピールできているかなど、気軽にご相談ください。
- 何度も推敲を重ねることが大事。
- 構想段階からの相談もOK。

URAオフィス連絡先

E-mail : rao@gr.saitama-u.ac.jp

HP : <https://ura.saitama-u.ac.jp/>